

野々市町文化協会

だより

野々市町文化協会賞

表彰状

文化振興賞 松本 佐一殿
 あなたは野々市町美術協会の設立に参画し、長年協会の発展と後進の指導育成に貢献され、広く町の文化振興に寄与され、ともに、県下のみならず全国的に陶芸美術の真価を発揮されました。よってここにその功績をたたえ表彰いたします。

昭和六十二年十一月三日
 野々市町文化協会長 飯森又郎
 振興賞第一号

表彰状

文化奨励賞 中野孝一殿
 あなたは第三十三回及び第三十四回日本伝統工芸展において優秀賞を授賞されるなど、その漆器工芸技術は県下のみならず全国的に高い評価を受けられました。今後さらに練磨され、励まされることを期し、ここに文化奨励賞を贈ります。

昭和六十二年十一月三日
 野々市町文化協会長 飯森又郎
 奨励賞第一号

私達の野々市町に文化協会が発足したのは二年前のことです。



ごあいさつ
 野々市町文化協会
 会長 飯森又郎

た。そして感じましたことは、それぞれの方々がそれぞれの部門で、非常に優れた業績を持っていらっしゃるということ、また、ひたむきな情熱に燃えていらっしゃるということでした。そのお姿に接し、各位に心から尊敬の念を持ち得ましたことは、野々市町に参り、本協会に所属させて頂きました私にとりまして大きな経験であり収穫です。

功績はございません。でも、本会発足以来この二年間、私は数人の各部会の方々にお会いいたしました。そしていろいろ話をお聞きしました。ないだろうか、この野々市町で地道にこつこつ何かを創り続けていらっしやるながら、私達の知らない価値ある文化の人がまだまだ埋盛れていらっしやるのではないだろうかと思うとき、一日も早くそれらの方々のお働きをこの目で確かめたいと思う心切なるものがあります。

世間知らずの町医者が野々市町という社会に進出し、野々市町の文化に接する機会を持ましたことを心から感謝しております。



発刊にあたりお祝いのことば

野々市町長 西尾 修

野々市町文化協会の活動を続けられ、本町の文化の発展に貢献されています。この度機関紙を発刊されることは、まことに意義深いことだと思います。

同時にまた、文化協会がこれまでで発展充実されるに至るまで、

野々市町文化協会は牛の歩みのようかも知れませんが、これまでに宮々として築かれた文化を支えつつある野々市町民の方々の力を鼓舞し、その宝を磨く推進力であればならないものと強く思っております。

野々市町の隠れた文化を掘り起こし、発展へのお力となり、広く内外に紹介することを使命と心得、努力いたすつもりです。皆様様の温かいご支援とご協力を賜りますことを切にお願ひ申し上げます。当紙第一号発刊のご挨拶といたします。

なお、今年五月に野々市町文化協会「フォルテ」が力強く開館すると聞いています。私達の業績を発表する場として利用させて頂けることを心から期待し、楽しみにしております。

野々市町文化協会加盟団体

- | 団体名 | 代表者名 |
|-----------|--------|
| 美術協会 | 二又 米造 |
| 音楽文化協会 | 宮岸 洋二 |
| 華道協会 | 館 敦吉 |
| 菊友の会 | 宮岸 喜信 |
| 椿愛好会 | 瀬尾 亮弥 |
| じよんから節保存会 | 荒木 幸男 |
| 盆栽愛好会 | 向田 初三郎 |
| 囲碁協会 | 魚住 雅一 |
| 将棋協会 | 始谷 久太郎 |
| 読書会連絡協議会 | 北村 倫子 |

(昭和63年4月1日現在)

野々市町文化協会

加盟団体だより

当協会は、昭和五十一年に野々市町の美術文化の興隆のためにとの要請があり、当時の社会教育課長佐久間由孝氏のお世話で、彫刻・高井志郎、工芸・松本佐一、洋画・酒井幸雄、それに日本画の私とが発起人という形でした。理事会を以って運営され、発足協会員数は三十名余りでしたが、お蔭で現在は五十六名と増えました。

初代会長に高井志郎氏が就任されて、協会展、町美術展を成功させてくださいました。五十七年病氣のため死去され、二代会長には松本佐一氏が就任になり、私達に勉強の場

美術協会



を与えていただきました。一昨年吉野谷村に転居なされて、現在は三代目になります。

私は発足時に事務局をしていたこと、年長者とのことで総会の席でお引受けした次第です。協会の皆さん、現理事会の皆さんとともに町の文化発展に一生懸命やってみたく思います。

六月に野々市町美術展、十一月には美術協会十周年記念展を、町の殿堂文化会館のオープン行事の中に組み込まれるよう願うものです。

私達創作者は単純に他のことは考えないで野々市町の文化発展に会員

盆栽愛好会



野々市町盆栽愛好会が発足して早や七年、子供で言えば入学する年となりました。盆栽というものを知らなかった私共ですが、毎月の定例会において講師ならびに諸先輩の指導により一通りの理屈もわかるようになりました。でもこれで良いということとは絶対ありません。それぞれの木の持っている特徴を見出すことが盆栽を楽しむ者の醍醐味だと思います。

町内には私共会員の外にも盆栽を楽しむ方がたくさんいらっしゃるとおもいます。盆栽を楽しむ者の同志として、一人でも多くの方々のご賛同ご入会をお願いします。ご参考までに年中行事をご紹介します。

会員盆栽仲間見



野々市町内の四つの読書会「野露」「野ぐさ」「野菊」「御園小育友会読書サークル」で結成、事務所を野々市町立図書館に置き、会員四十五名で、昭和六十一年七月二十三日に発足しました。

四つの読書会の中には、二十五年の年月を重ねた会もあれば、出来て

間もない会もあり、昼の会もあれば夜の会もあり、それぞれの会に合った運営をしています。皆、文化を微妙に映す言葉というものに魅せられ、読書により生き方を見つめようとしている仲間です。

協議会では、予算や人数の関係で個々の会で実行しにくい合同読書会文学散歩、講演会の行事と興事業への参加打合せ等をしており好評です。また、わが町に、町民や子供達に親しまれる立派な図書館が出来るのが会員一同の切なる望みなので、文学散歩には必ずモデル図書館の見学を組み入れています。

四月から新しく発足される読書会があると聞き拍手をおくります。今後、会員の考えを出し合います。す充実した活動をし、生涯教育の一

会名	開催日時	開催場所
野露	最終土曜日PM 八時～一〇時	中央公民館
野ぐさ	第一月曜日PM 一時～三時半	町民研修センター
野菊	第二次曜日PM 一時～三時半	勤労者の家
御園小サークル	第三土曜日PM 二時～四時	御園小学校

連絡お問合せは、野々市町立図書館へ 風 四八〇五二一

華道協会

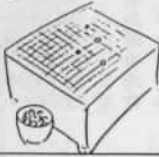


町内華道の協会設立を望む声が高まり、そこで上村、亀井、村上の先

県内盆栽家訪問研修
北陸盆栽展見学
県外一泊研修旅行
四季の盆栽手入れ法
毎月 定例会

年会費 二、〇〇〇円
入会金 一、〇〇〇円
(向田初三郎)

囲碁協会



多数ご臨席のもと六名の記念表彰の外、テープカット、記念写真撮影の後、花展観覧開始となり、盛大裡に終了。現在九流派、一一〇名の会員を擁し、役員は別記の通りです。

○会長 魚住 雅一
○会員数 一七〇名
○はじめに

この会の会員は、小学生から九十歳近い方までいます。また碁の腕前も、全く初心者から県下のトップ級までと、化にとんでおります。碁というゲームは、このようにどんなでも楽しく、いつまでもできるゲームです。

読書会連協



環として努めたいと思っています。また、男性の方々も参加され、読書会が次々に生まれ、読書人口が増えることを念じて止みません。
(北村倫子)

○タイトル戦
名人位(二段以上) 金杯位(二級以下) 初段 銀杯位(三級以下)の三大タイトル戦を毎年旧盆に行なっています。名人位10期、銀杯位9期を数え、金杯位は今期新設しました。

このタイトル戦の挑戦者予選会が十月中旬にオール互先(ハンディなし)で予選リーグ者資格権の争奪大会が開催されています。

○新春囲碁大会
A級(有段者) B級(上級者) C級(下級者) 初級者の四クラスでトーナメント戦。ハンディは段級差一目で、毎年一月に開催されます。

○県内の囲碁大会に参加
新聞社や各地での諸大会には、「野々市町囲碁協会チーム」として参加しています。主力チーム編成のた

じょんから節 保存会



野々市町文化協会の機関紙が発行されることになり心からお慶び申し上げます。関係者の皆様方に深く感謝いたします。急激に変貌する情報化社会の中で芸能文化がいよいよ昇華し発展するものと期待しております。加賀文化発祥の地野々市町に待望久しかった「文化の殿堂」野々市町文化会館も、完成間近かとなり、文

化協会の一員として誠に喜びにたえない次第であります。今年、先人の文化遺産「野々市じょんから節」にとり、一千年の輝かしい歴史を賛える記念すべき年でもあります。野々市じょんから節保存会では、これを契機に、より一層皆様に愛され親しまれる芸能として、踊りの輪・心の和を広めながら、会員一同研鑽努力するものであります。

郷土の繁栄と芸能文化の向上を願いつつ皆様の活躍とご健勝をお祈り申し上げて挨拶いたします。

(荒木幸男)

四名の方々呼びかけ、五十三年五月七日町中央公民館にて協会設立準備会を開き、同年十月五日設立総会開催。ここに若松一郎氏会長となり八流派計二十四名の会員登録を以て今後の振興発展を期して力強く発足した。

昨年十周年の輝かしい節目を迎え、六月二十日、二十一日、記念大花展を開催。西尾町長さん始め来賓

- 顧問 若松 一郎 山原 春代(池 坊)
 会長 無量井 三郎 吉井 桂秀(小原 流)
 副会長 亀井 敏吉 亀井 圭彦(御室 流)
 村上 秀明 増 美彦(御室 流)
 村上 映光 竹内 雅子(古 流)
 事務局長 若島 翠光 南 華節(全振三協会)
 会計 荻野 隆吉 吉田 桂樹(全振三協会)
 監事 西保 淳南 石沢トシ雨(嵯峨御流)
 後援 映芳 高野清晃園(松月室流)
 野野 慎佳(草月流)

椿が野々市町の町花木に選定されたのは、昭和四十九年六月十九日、町議会で議決されたときである。椿は昔からどの家にもあり、特に意識しないほど私達の生活の中に自然に融け込んでいる花木である。昭和四十四年に武田科学振興財団から、英文の「日本の椿」が出版されたが、その中に「野々市白」という品種の椿が紹介されている。解説には野々市周辺には、この椿とは別の栽培変種が多数見受けられると記されている。このことよって、その椿種の調査が進められ、昭和四十八年頃、早咲きで一重の花を持つ同種の椿の木が十数本あることがわかり、正式に「野々市」という品種名がつけられたのである。

椿愛好会は「野々市」椿の誕生と

椿愛好会



町花木に「椿」が選定された機に、昭和四十九年十二月、町内の椿好きな人達によって、会員相互の親睦を図り、町花木「椿」を通して緑と花の町づくりを目ざすことを目的に結成されたのである。

年間の事業としては、椿栽培技術の研究と普及、町内の椿の分布調査の調査と普及、見学会等であるが、中でも会員の一番の楽しみは椿観賞を兼ねた親睦旅行である。これまでに京都、若狭、名古屋、岐阜、三重

等で毎年椿の名木を尋ねての日帰りの旅を続けている。

椿愛好会が結成されて今年で十四年、現在の会員数四十五名、理屈抜きに椿が好きの人達ばかりの集まりである。椿の専門家もいない、まして天狗もいない。みんな素人である。庭に椿の名種苗を求めて植える人、切り花を楽しむ人、挿木から苗を育てる人、盆栽づくりに精を出す人、月一回の定例会には時間も忘れて話しの花が咲く。平凡な集まり、地味な活動、それがこの会の良さであり、今日まで会が続いている原因でもある。

来年は会結成十五周年になる。記念事業の取組みに会員それぞれ大きな夢をふくらませている最中だ。年会費一千元。

育てよう花と緑で
 人とまじり

菊友の会



○定例会 中央公民館三階和室で、毎週土曜日の晩と、一、第三日曜日の午後二時に開く。初心者教室をはじめ、常連によるリーグ戦では会長賞獲得に懸命な姿も見受けられます。

過ぎる昭和三十六年ごろ、太平寺町の中島喜寿さんから、盆栽菊を作っている人もあり有志で会を作ろうではないかと誘いがあってできたのが、現在の「菊友の会」の始まりです。当時は十二、三名のスタートでした。以来今日まで二十七年経ち、逐次増員して現在は五十名ぐらいいなりました。

主な行事としては、苗の分譲から栽培方法の指導等を行ない、年一回文化の日を中心に展覧会を行なっています。これまでの二十七年間の成績を振り返ってみますと各年の優勝者は次のようです。

- 昭和36年 東 徳松 47 / 48 頼尾長遠
- 37 松原宗円 49 / 52 広見信一
- 38 中島秀男 53 / 57 高橋外茂算
- 39 / 42 宮岸喜信 58 / 59 北村茂明
- 43 徳野孫次 60 北川和枝
- 44 松原宗円 61 / 62 北村茂明
- 45 / 46 島崎文雄

近年は、婦人層、小中学生の参加もあり、将来が楽しみです。

(宮岸喜信)

に、協会の各会合に出席されて、あなたの實力を見せてください。

○会費 年間千円。ただし小・中学生は無料です。基会に出席のおり受付けしています。



音楽に心を寄せている人達の間で「野々市町に音楽に関して一つのまとまりを持った会を作り、連携、協調しあって楽しい集まりにしたい」といった願いを込めて設立したのが一九七七年の暮のこと。予算もほとんどなく、バックアップしてくれる団体もない中で、とにかくスタートしました。

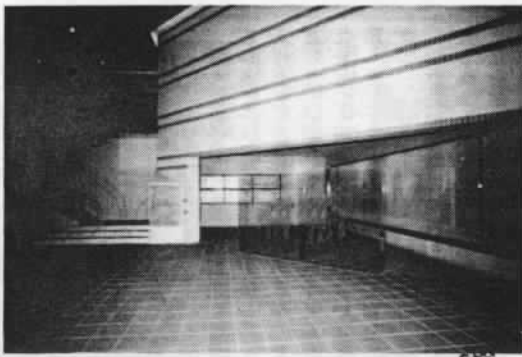
いざ発足してみると、思わぬ方達の共鳴や、町当局のご理解もあり、機関誌の発行や音楽祭の催しも昨年で十回を数えることができるようになりました。

今年、音文協発足以来、かねてからの念願のホールも完成し、個人、六団体あわせて百余名の会員一同、張り切っています。(佃 栄太)

インド・ガンダーラの岩壁に彫刻されていた仏像の一部を原型にされたもので、野々市町文化協会賞振興賞として制作されました。



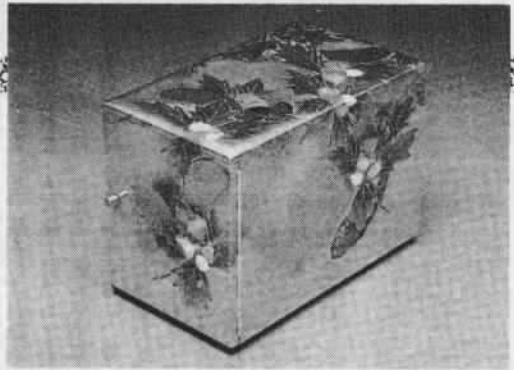
五月十四日のオープンが待たれている文化会館内部。コミュニティプラザから、ふるさと展示コーナーの一角



役員名簿

会長	飯森 又郎
副会長	松本 佐一
理事長	宮岸 洋二
常任理事	荒井 秀明
	荒木 幸男
	宮岸 善信
	瀬尾 亮弥
	二又 米造
	館 惣吉
	向田初三郎
	魚住 雅一
	船谷久太郎
	北村 倫子
	読書会連協

幹事	(会計) 北 清志	美術協会
	(庶務) 宮田久美子	華道協会
監事	山口 正昭	じよんから保
	山口 良	得真協会
理事	北 高橋外茂男	菊友の会
	丸山 真雄	椿愛好会
	丸山 昇一	美術協会
	丸山 順孝	音文協
	小杉 久夫	盆栽愛好会
	源野 辰一	囲碁協会
	亀井 政子	読書会連協



日本伝統工芸展で高松宮記念賞受賞作品
蒔絵栗鼠文小筆筒 中野 孝一様

将棋協会



毎週木曜日の午後七時半から十時まで、中央公民館三階和室で例会を行なっています。二か月間毎に順位戦が総当りリーグ戦で行われています。今年から会員が増えたことからA級B級リーグに別かれることになりました。

町外からの愛好者や高段者の参加も多く、初心者にとっては棋力の実力試しや上昇にもなります。どなたでも、いつからでもお誘い合わせ一度ご参加ください。年会費二千元。A級者のレベルは高く、県内の各大会ではよく入賞しています。主催事業として町民将棋大会が毎年開催されていますが、今年は県将棋連盟のご支援を得て八月二十一日に新設の文化会館でビック大会が計画されています。

詳細お問い合わせは中央公民館まで。
フフフフフフフフフ
フフフフフフフフフ
フフフフフフフフフ
フフフフフフフフフ
フフフフフフフフフ

文協通信

○町花である椿をテーマに取上げられて、美術協会の各サークルが作品を作っていたことを期待しています。また、各大会の最高表彰などに「椿賞」を制定するなど、町花意識を高めてはと思います。

○文化ホール落成に際し、協賛記念植樹として椿の木を寄付することを話し合っているところです。(椿)

○ジャスコさんのご好意で、店頭盆栽を展示させてもらっています。お客様からも喜ばれていると言われています。

○現在五十人ほどです。若い人もどんどん入ってほしい。参加されたいと育てることのおもしろいことがわかるといいます。若い時からなら余計良いことです。入って楽しんでほしい。(盆栽)

○文化協会ができて、文化ホールが完成した今年をチャンスに、町の最大事業である「じよんからまつり」を盛り上げるために、各団体が協賛行事を取り組むようには。(囲碁)

○学校などから希望や問い合わせがあれば、無料奉仕で出向けるような体制ができることが望ましい。

○文化協会の運営活動資金を作るためにチャリティをしては(華道)

○文化ホールの開館が間近いが、町当局を交えて意見を交換することも大切である。行政をリードするようであれば提案不足になっていく。(美術)

野々市町文化協会より 創刊号 発行日 昭和六十三年四月一日 野々市町文化協会 会長 飯森又郎 事務所 野々市町中央公民館内 電話 480521